

# ノーサイド

北原巖男

で全島を占領しました。日です。さらに無線隊長は、本軍が配備したのは、当時電文案に「日本軍作戦道路3つしかなかった自動車化師団2万人。この師団は、常に激戦地で先陣を切る日本軍の虎の子部隊でした。ティモール島が日本にとつて極めて重要な最前線であったことを示しています。

1943年9月、住民の通報により、オーストラリア軍の偵察要員5人を拘束しました。無線機や暗号書、通信記録も取得。これが最前線での情報戦の始まりです。師団通信隊では、早速「逆無電」の作業を開始しようとしていました。古参の隊員が言いました。「打電には手クセや速度がある。いつもと違うものを見ると違和感を感じ疑義を持つかもしれない」。そこで一計を案じました。電文末尾に「伍詰を開ける際手指を傷つけない」と入れることにしたの

です。新しい偵察隊のティモール島上陸を待ち伏せて拘束したり、空き家を爆撃させたり、投下要請した医薬品や食料、原住民宣撫用の人形、衣類、慰問袋等大量の品々を接收することも出来ました。現地では「豪州給与」と呼んでいました。その中でも最大の功績は、ティモール島に兵士や補給物資が大量に投入され

ておいてやると、前に書いてあることも本当のことになりやすいものだ」そしてそのまま祈るような気持ちで打電。キャンベラとの時差を忘れるという信じられないミスに肝を冷やしました。効果がはきめんでした。オーストラリア側は、全く信じてしまったので、その後も、ニセ情報を慎重が上にも慎重を期しながら、ほんの少しの真実を混ぜてドンドン送りま

す。最大10万、15万とふんだいた軍隊がどこにもいないのです。目の前にいるのは桁ちがいに小さい約1400人の人員だけだったからです。すなわち最前線ティモール島での情報戦は、日本軍の完全勝利で終了したということを認識させられた瞬間だったのです。

昨年12月27日の閣議決定を受け、中東地域での日本関係船舶の安全確保に必要な情報収集態勢を強化するため、海上自衛隊のP-3C哨戒機2機と護衛艦1隻(2月に出航するのはヘリコプター搭載護衛艦「たかなみ」が任務に就きます。日本は原油輸入の9割近くを中東に依存しており、ホルムズ海峡を通過する日本の海運会社が運航する船舶は年間約3900隻。パ

## 最前線での情報戦

ティモール島は、ティモール海を隔てオーストラリアと対峙する小さな島です。

1941年12月8日、

真珠湾攻撃を機に太平洋戦争が始まるや、オース

トラリア・オランダの連合軍は、12月15日には中

立国のポルトガル領ティ

モールを予防占領し、テ

イモール島全島を占拠し

ました。これに対し日本軍は、翌年2月、すぐに連合軍を排除し、終戦ま

ず。彼らは信じられませ

は年間1800隻と言わ

れています。まさに日本

の経済活動の生命線を握

る最前線での情報収集活

動です。

安全確保に万全を期し、卓越した統率の下、任務の完遂を祈念して止みません。

(参考文獻) 輝け南の島の知謀戦 ティモール島星空の勇者 たち(山口重晴著・2003年5月新風舎刊) 「チモール島の楠木正成」(三浦重介著・「文芸春秋」1961年9月号)

北原 巖男

(きたはらいわお)

元防衛施設庁長官。元東

ティモール大使。現(一

社)日本東ティモール協

会会長。(公社)隊友会

理事